

國學院大學學術情報リポジトリ

取り組みレポート

初年次の演習科目「基礎演習B」へのアクティブ・ラーニング導入の報告：学生アンケートを中心に

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東海林, 孝一, 根岸, 毅宏, 中田, 有祐, 細井, 長, 本田, 一成, 宮下, 雄治, 山本, 健太 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00002088

初年次の演習科目「基礎演習B」へのアクティブ・ラーニング導入 の報告：学生アンケートを中心に

東海林孝一・根岸毅宏・中田有祐
細井長・本田一成・宮下雄治・山本健太

【要 旨】

本取り組みレポートは、本誌第6号に掲載された「初年次の演習科目『基礎演習A』におけるグループワークの取り組み」の続編にあたるものである。國學院大學経済学部では、平成26年度に、1年次の導入科目である「基礎演習A」と「基礎演習B」において、アクティブ・ラーニング手法（グループワーク）の導入を、一部のクラスでトライアルとして実施した。

本レポートは、この取り組みにおける授業実践例を紹介するとともに、初年次教育におけるアクティブ・ラーニング手法（グループワーク）の導入に関する効果検証を行うものである。具体的には、まず、授業内容を紹介し、学生が中長期的なプロジェクトに取り組む際に留意すべき点を指摘している。さらに、学生アンケートの結果を、前期と後期にアクティブ・ラーニング手法を経験したクラス、後期から経験したクラス、参加していないクラス、の3グループに分類した上で、分析を加えている。

分析の結果としては、アクティブ・ラーニング手法を経験した学生がよりポジティブな反応を示していることが明らかになった。この結果は、この取り組みの意図と整合するものである。

【キーワード】

アクティブ・ラーニング 初年次教育 グループワーク 課題解決型授業（PBL） 学生アンケート

1. はじめに
2. 授業内容の紹介と授業設計上の留意点
3. 学生アンケートの結果とその分析
4. むすびにかえて

参考資料

1. はじめに

本稿は、本誌第6号に掲載された「初年次の演習科目『基礎演習A』におけるグループワークの取り組み」⁽¹⁾の続編にあたるものである。國學院大學経済学部では、平成26年度に、1年次の導入科目である「基礎演習A」（1年前期、必修科目）と「基礎演習B」（1年後期、義務履修科目）において、アクティブ・ラーニング手法（グループワーク）の導入を、一部のクラスでトライアルとして実施した⁽²⁾。具体的には、全24クラスのうち、「基礎演習A」では7クラス（対象学生：約170人）において当該取組みを実施し、「基礎演習B」では12クラス（対象学生：約290人）において実施している。

本稿の目的は、この取り組みにおける授業実践例を紹介するとともに、初年次教育にお

けるアクティブ・ラーニング手法（グループワーク）の導入に関する効果検証を行うことである。そのため、以下では、授業内容を紹介した上で、学生アンケートの結果に基づき、基礎演習のクラスを前期と後期にアクティブ・ラーニング手法を経験したクラス、後期から経験したクラス、参加していないクラス、の3グループに分類した上で、分析を加える。なお、参考資料として、教員の感想、受講生の感想、「基礎演習A」のシラバス、「基礎演習B」のシラバス、振り返りシート、および相互評価シートのサンプルを巻末に掲載している。

2. 授業内容の紹介と授業設計上の留意点

初年次前期の演習科目である「基礎演習A」では、主として基礎的学修スキルの修得に主眼を置き、グループワーク形式で授業を展開した。本稿の報告対象である、初年次後期の演習科目である「基礎演習B」でも、その授業時間の大半で、課題解決型（PBL）のグループワークに取り組んだ。課題は、「10年後のコンビニエンスストア」というテーマで、日本フランチャイズチェーン協会から提供を受けた。半期の授業のうち10回分を当該テーマに基づいたプロジェクトに割当てており、2014年12月には、この取り組みに参加した12クラス全体のプレゼン大会も開催している。プレゼン大会の後は、各クラスで、プロジェクト全体の振り返りを行い、グループごと、また個人ごとに、自らの要改善点の発見を促し、2年次以降の学修意欲の向上等に繋げる取組みも行っている。

なお、「基礎演習B」では、前期の「基礎演習A」と同じクラス・同じメンバーで授業を行うため、旧来より、教員間で、中だるみを防ぐことが課題として指摘されてきた。特に、今回のように、同じグループメンバーで中長期的なプロジェクトに取り組む場合、中だるみの防止、およびフリーライダー対策は、授業設計における最重要課題の1つであった。それらの対策として授業で実施した工夫を含めて、授業内容を紹介しながら説明しよう⁽³⁾。

2.1 授業内容の紹介

以下では、「10年後のコンビニエンスストア」の課題に取り組んだ授業内容について紹介する。グループは、4人1グループを基本とした。「基礎演習B」の全体の授業スケジュールの例については、巻末の資料4を参照されたい（担当教員の裁量で、クラスによって多少の違いがある）。⁽⁴⁾

- ①レジュメに基づきグループ内で報告する（発表：5分×4人、質疑：1分×4人）
- ②KJ法に基づきアイディアを出す（20分）
- ③出されたアイディアについて、SWOT分析を活用して整理する（20分）
- ④本日の成果についてまとめ、次週までの課題・分担を決める（5分）

- ⑤本日の成果について全体報告し、成果・進捗を共有する（2分×6グループ）
- ⑥グループメンバーへの評価シートに記入する（5分）
- ⑦個人の振り返りとして授業終了後に振り返シートを記入・提出する

2.2 授業設計上の留意点

中だるみやフリーライダーへの対応策として工夫した点は、主としてつぎの3つに要約できる。

第1に、毎週、学生に対してレジユメの作成・グループ内での報告を課した点である。グループを単位として中長期的なプロジェクトに取り組む場合、グループに貢献しないばかり学生（いわゆるフリーライダー）が出現しやすい。その対策として、すべての学生に毎週レジユメを作成させ、かつ教員に提出させることで、フリーライドを防ぐとともに、教員側でもフリーライダーが出現した場合に即時に把握できるようにした。

第2に、毎回の授業後に「振り返りシート」（資料5）を実施した点である。当該シートには、学生自身の学習状況の達成度や次回までのグループにおける役割・課題を記入させ、これを毎週実施した。学生自身がこれらを記入することで、自身の、またグループの現状と（短期的な）課題が明確になり、中だるみを防止しモチベーションを維持・向上させる上で一定の効果があったものと思われる。また、当該シートに対しては教員がコメントを付し学生に返却していたが、その副次的な効果として、教員・学生間のコミュニケーションツールとして機能した点も指摘すべきであろう。

第3に、グループメンバー間の相互評価シート（資料6）を実施した点である。レジユメや発表、グループワークにおける良かった点や要改善点について当該シートに記入させ、学生同士で相互評価させた。こちら、振り返りシートと同じく毎週実施することで、自身の貢献が見えにくい中長期的なグループワークにおいて、グループメンバーからの評価を常に得ることができることになり、モチベーションの維持・向上に一定の効果があったものと思われる。

3. 学生アンケートの結果とその分析

次に、「基礎演習A」と「基礎演習B」で実施した学生アンケートの結果の一部を紹介しながら、その分析を行う。図表1において、Aグループは「基礎演習A」と「基礎演習B」で、統一シラバスに基づきアクティブ・ラーニング手法を経験した7クラスの結果であり、Bグループは「基礎演習B」のみで経験した5クラスの結果である。Cグループは、今回の取組みに参加していない12クラスの結果である。

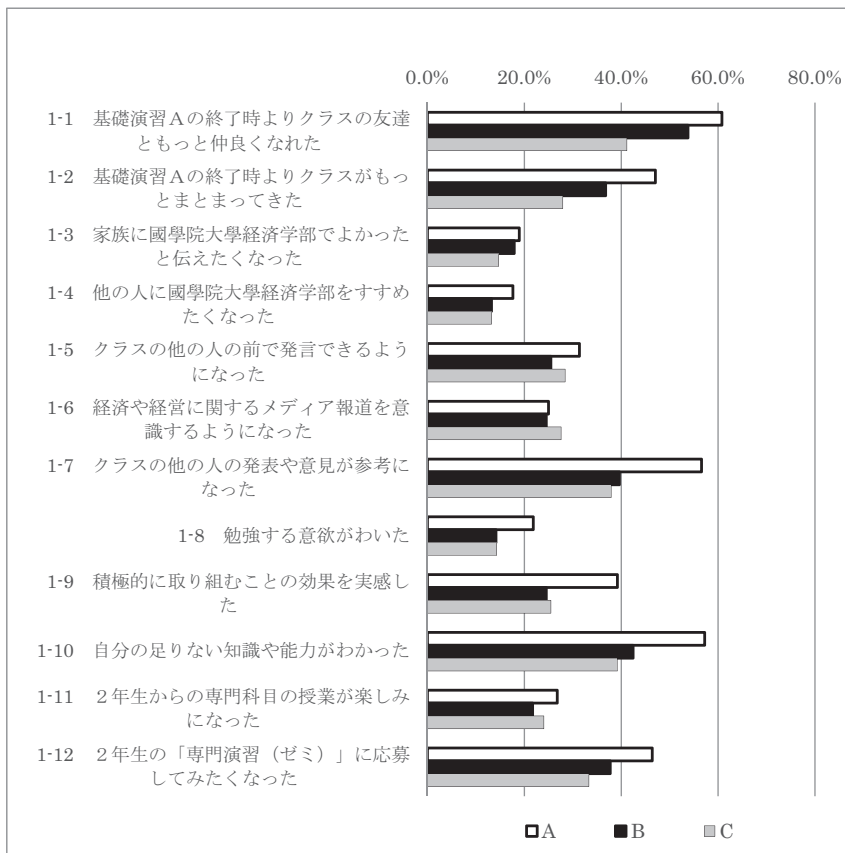
3.1 全般的項目に関するアンケート結果とその分析

図表1は、「基礎演習A」および「基礎演習B」に関して設定された各設問に対す

る学生の感想を示している。各設問項目に「とてもそう思う」、「ややそう思う」、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」のいずれかを選択する形式で回答してもらい、「とてもそう思う」に3点、「ややそう思う」に2点、「あまりそう思わない」に1点、「まったくそう思わない」に0点を与え、平均値を示した。設問1-6を除き、Aグループが最も高くなっている。とくに、1-1の「クラスの友達ともっと仲良くなった」、1-7の「他の人の発表や意見が参考になった」、1-9の「積極的に取り組むことの効果を実感した」、1-10「自分の足りない知識や能力がわかった」などで、Aグループの数値が高い。友達と仲良くなりながらも、クラスの他の学生との考え方等の違いを認識し、積極的に取り組むことの効果を実感できているようである。

図表2は、学生が授業開始時と調査時（授業終了時）の積極性を100点満点で評価した結果の平均値（積極性ポイント）を示している。アンケートの選択肢としては、「100点」、「90点くらい」、「80点くらい」「70点くらい」「60点くらい」「50点以下」を用意し、それぞれの選択肢を、100点、90点、80点、70点、60点、50点と換算した上で、積極性ポイントを算出した。

図表1 全般的項目に関するアンケート結果



図表2 積極性ポイントの推移

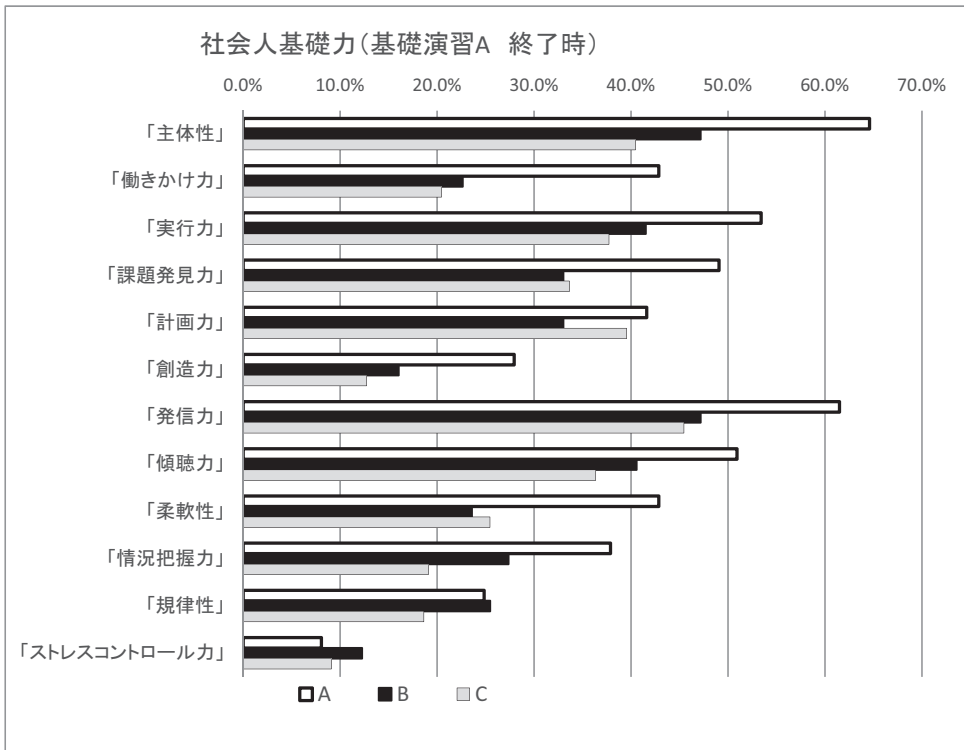
	Aグループ		Bグループ		Cグループ	
	基礎演習A	基礎演習B	基礎演習A	基礎演習B	基礎演習A	基礎演習B
(a) 開始時	66.8	64.0	76.5	67.6	67.9	67.0
(b) 終了時	73.0	76.0	71.5	78.4	64.9	72.4
(b) - (a)	6.3	12.0	-4.9	10.8	-3.0	5.4

「基礎演習A」で授業開始時と終了時のポイント差をみると、当該授業においてアクティブ・ラーニング手法を経験したAグループだけが終了時のポイントが高く、他の2グループではポイントが下がっている。「基礎演習B」では、いずれのグループにおいても、開始時よりも終了時のポイントのほうが高いが、アクティブ・ラーニング手法を経験したAグループとBグループで開始時よりも終了時のポイントが10以上高く、これらの数値はCグループの2倍以上になっている。

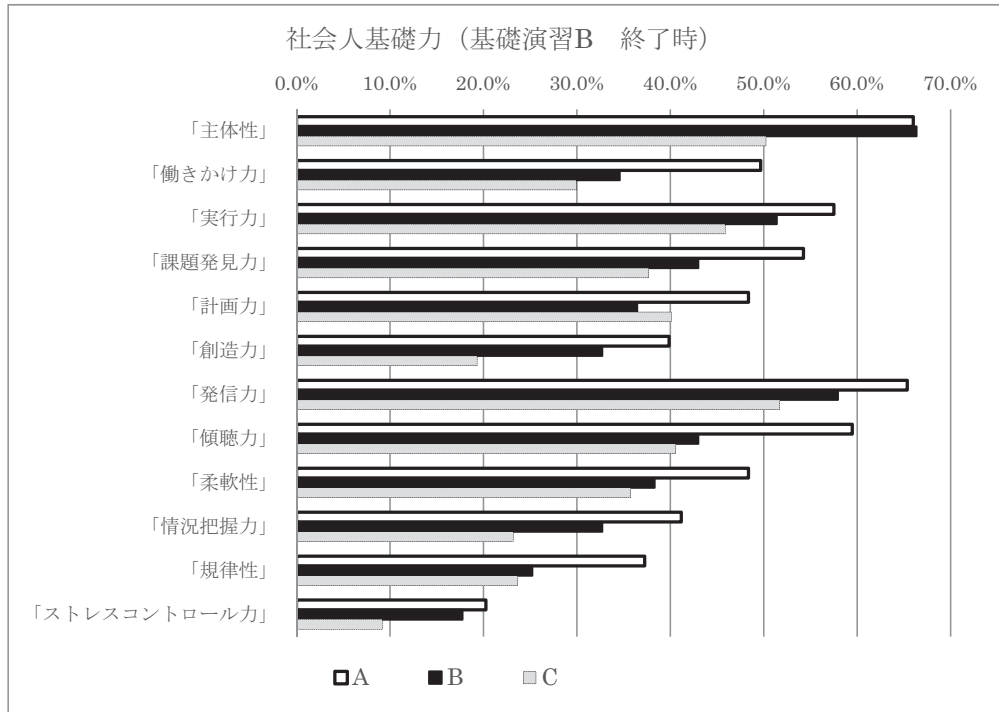
3.2 社会人基礎力に関するアンケート結果とその分析

図表3および図表4は、近年、経済産業省から提唱されている「社会人基礎力」の各能力と基礎演習授業との関係について、学生にたずねた結果を示している。図表3は「基礎

図表3 社会人基礎力に関するアンケート結果（基礎演習A終了時）



図表4 社会人基礎力に関するアンケート結果（基礎演習B終了時）



演習A」終了時の結果であり、図表4は「基礎演習B」終了時の結果である。

この2つの図表から全体的な傾向が指摘されよう。統一シラバスに基づきアクティブ・ラーニング手法を経験したAグループの数値が高く、実施していないCグループの数値が低い。興味深い点は、Bグループの数値が、アクティブ・ラーニング手法導入前の前期終了時点（図表3）ではCグループに近いものの、導入後の後期終了時点（図表4）ではAグループに近づいていることである。

4. むすびにかえて

以上のように、学生アンケートの結果から、アクティブ・ラーニング手法を導入した授業を受講した学生がよりポジティブな反応を示していることがわかる。こうした結果を受けて、平成27年度には、「基礎演習A」と「基礎演習B」とともに、24クラス中15クラスがアクティブ・ラーニング型の授業を実施するようになった。また、平成26年度と平成27年度の2年間のトライアルを経て、平成28年度からは「基礎演習A」と「基礎演習B」のすべてのクラスでアクティブ・ラーニングを実施することが予定されている。

さらには、平成26年度のトライアルにおける成果とその反省を踏まえ、平成27年度より、アクティブ・ラーニング手法の授業を行うクラスすべてに、上級生のアドバイザー（FA）が配置されている。そのため、現在（平成27年度）の基礎演習では、教員と比較して受講

生により近い存在であるFAが、グループワークにおける議論の促進、受講生間の潤滑油としての機能等の重要な役割を果たしており、平成26年度に比べてより効果的なアクティブ・ラーニングの実践がなされている。これらの取り組みの成果についても、順次、本誌で報告していくこととしたい。

本稿は、國學院大學教育開発推進機構の平成26年度学部FD推進事業（課題名「導入教育における主体的な学びの促進」）、および同研究開発推進機構の平成26年度学部共同研究費（課題名「基礎演習A・Bにおける教育内容の標準化と見える化」）からの支援の成果の一部である。ここに記して謝意を表したい。

注

- (1) 東海林孝一・根岸毅宏・中田有祐・細井長・本田一成・宮下雄治・山本健太（2015）、「初年次の演習科目「基礎演習A」におけるグループワークの取り組み」、『教育開発推進機構紀要（國學院大學）』第6号、pp. 109-133。
- (2) 「基礎演習A」および「基礎演習B」の科目の位置付け、および今回の取組みに至った背景等については、東海林他（2015）を参照されたい。
- (3) グループワーク型の初年次教育を展開する上での全般的な注意点については、東海林他（2015）を参照されたい。
- (4) なお、これらの授業内容のうち、KJ法やSWOT分析といった分析ツールの修得は、「基礎演習B」の到達目標に含まれるものではない。あくまで、中長期的なプロジェクトを行う上で、それらのツールを利用したのみである。

<資料1：教員コメント>

「学生のターニングポイントに喜び！」

2014年度経済学科1年7組担当 高橋 尚子

「女子が少なく、暗くて、活気がない」と言われる経済学科のクラスを、活性化しとめるには、アクティブ・ラーニングを取り入れるしかない、と直感で始めた。これまで担当した経済ネットワーク学科（以下、ネット）は、女子が半数近くおしゃべりが多い、男子のほとんどが子供っぽく、活気があると言えばいいが、うるさかった。また、後期は、数冊の新書を分担して読ませ、内容の発表をしてきたが、途中でダラけたり、発表日に欠席するなど、完全な形で遂行するのは難しかった。

ネットに比べると、経済学科は女子が2割と少なくおとなしい、男子は真面目で理屈っぽい学生と子供っぽい学生が半分ずつで、自己主張が強い。新書購読だけで半期のモチベーションを維持するのは難しい。グループワークをして発表させても、中途半端な回数や目標では破たんするか、満足度を高めるのは難しい。とは言え、予定外の授業形式にすると「聞いてない」と言われる。そこで、後期の始めに、グループワークを中心にした授業形式にすることでよいか確認をした。さらに、12月に大会があること、前期からその取り組みをしているクラスとのハンディがあることは承知してもらった。

グループワークは第2回目から開始した。始めの2回は、グループワークの基本となる、思考法ツール（KJ法、SWOT分析、など）を体験させた。30数年前、企業に入社して新入社員時代の研修で行ったこと、QC（品質管理）強化での活動など、を思い出す。当時は、「ポストイット」が高価で、課長以上しか使えないものを使えた喜びが大きかった。

3回目からは、12月のプレゼン大会に向けた本格的グループワークを開始する。ここで、グループ分けをしたにもかかわらずグループができないという予定外のことが発生。あるグループでは、4名のうち3名が欠席。残った1名を欠席者がいる別グループに参入。4回目からは欠席者でグループを編成した。当然のことながら、欠席者グループはまとまることができず、「個性を大事にする」というグループワークの目的とは正反対の行動をとる。協調性が低く、欠席がちメンバーを見誤るとグループは破たんすることが判明した。

このままかと思いきや、ターニングポイントが訪れる。それがクラス代表を決める2週間前、中間発表で仮投票を行った後である。代表予想の声が高い2チームがクラスのほとんどの票をさらい、僅差という結果がでた。この2チームは、より内容を深め、発表力をあげる。密かに代表を狙って高度な内容を盛り込んだ別グループは、発表力の弱さに気づき、どうするか検討する。欠席者グループも、まとまる必要性を理解し、完成度を上げようとする。当然、クラスの空気が変わり、グループの結束力が高まる。ようやく、グループワークの成果が感じられるようになり、「君たちは変わった！」とほめた。そのまま、

大会まで持続できた。

そして、大会後、新書購読に戻る。個人の力で理解し、レジメを用意し、発表しなくてはいけない。春にクラスの集いでモゾモゾと自己紹介をしていた学生たちが、堂々と顔をあげ、大きな声で力強く発表をする。間違っている、わからなくても、私に助けを求めず何とか対応する。発表に対してのコメントも、「特にありません」と言っていたのが、「良かった」と言えるようになる。良くも悪くも、自信がついてきたのは明白である。

いつもはマンネリ化してダラけてくる11月だが、逆に学生の変化に喜び、モチベーションが上がり、あっという間に終わったというのが実感だった。

<資料2：学生コメント>

「基礎演習Bにおけるプレゼン大会の経験とその後の大学生活」

経済ネットワーク学科2年 長尾 沙津季

私は1年前、基礎演習Bの勉強成果を発揮する機会であるプレゼン大会で最優秀賞をいただきました。アクティブ・ラーニングを取り入れ、学生主体で学びを進める前期の基礎演習A・後期の基礎演習Bは、今まで講義型の授業に慣れていた私にとって新鮮で楽しいものでした。そんな授業の集大成であるプレゼン大会で優勝できたことは大きな成長と誇りになりました。

その賞を受賞してからというもの、それまでのサークル中心だった私の大学生活は一変し、さらにレベルの高いアクティブ・ラーニングを求めて2種類の経営学特論(ビジネスデザイン・リーダーシップ)を受講し、他大学の学生と合同で行うビジネスプランコンテストに参加しています。また、その多くの経験を、今年度基礎演習を受講している学生に指導を行うFAの活動に活かしています。

このように経済学部では1年生の必修である基礎演習を受講し終わった後でも、自分が成長するための線路が敷かれているのだと思っています。今は用意された線路をがむしゃらに走っているだけですが、そこで学びは、卒業して線路を敷いてくれる人がいなくなっても自分で行くべき道が分かるようになるはずだと強く実感します。

「基礎演習Bについて」

経営学科2年 若林 喜実

基礎演習は私にとって多くのプラスの作用をもたらしてくれた科目です。課題解決型の授業でなおかつ企業から課題をもらって取り組むということは初めての経験でした。実際に受講してみて思ったのは「答えのない課題」に対して自分たちなりの答えを見つけ出すことの難しさ、そしてあらゆる知識が圧倒的に足りていないと実感しました。課題に取り組み始めのころは「コンビニ」という身近なテーマであったこともあり、正直なところそんなに難しい課題ではないと高をくくっていました。ですが実際に取り組んでみると自分があたりまえだと思っていることを表現することがどれほど大変なのか思い知りました。課題に取り組むなかでなにもかも大変ではありましたが、学ぶことの楽しさやチームでひとつのものを作り上げることの面白さなど、1年生のころから得がたい体験ができたことに今はとても感謝しています。

「基礎演習Bについて」

経済ネットワーキング学科2年 松尾 英佑

私は基礎演習Bでチームのリーダーを務めました。「十年後のコンビニエンスストア」という課題に取り組んだグループワークは私に重要な経験を与えてくれました。私は高校時代からリーダーを数回務めてきました。しかしそこでのリーダーはただ仕事が多だけの雑用係でした。その経験から基礎演習Bでは発表の資料や原稿を全て一人で作りました。その方が効率も質も良いと考えていました。しかし結果はクラス予選すら突破できずに惨敗。発想もプレゼンの資料も独りよがりなものでした。何よりも問題はメンバーと仲良くなれなかったことでした。その結果授業を楽しむこともできませんでした。

この経験から、その後に受けたビジネスデザインではメンバーとコミュニケーションを取り、調整役としてのリーダーの仕事に専念しました。その結果、意見が出しやすい環境が生まれ、出てきた意見からさらに新しい意見が生まれました。最終的に私たちのチームは2位になり、複数人が共同で仕事をするグループワークの大切さを実感しました。

資料3：「基礎演習A」シラバス

① (クラスの集い)	授業の目的 履修指導 自己紹介
①	授業の説明 アイスブレイク
②	コンピュータガイダンス 図書館ガイダンス
③	GW：「良いノートとは」
④	GW：「レジユメの効果」
⑤	GW：①「マクドナルド VS モスバーガー」
⑥	データベースガイダンス
⑦	GW：②「マクドナルド VS モスバーガー」 GW：「渋谷は成長するか、衰退するか」
⑧	レジユメ作成ガイダンス GW：①「渋谷は成長するか、衰退するか」
⑨	GW：文章の要約方法 GW：②「渋谷は成長するか、衰退するか」
⑩	GW：③「渋谷は成長するか、衰退するか」
⑪	GW：④「渋谷は成長するか、衰退するか」
⑫	期末試験への臨み方 ゼミに関する説明
⑬	新書に関する発表①
⑭	新書に関する発表②
⑮	GW：「基礎演習Aの改善点」 アンケート

(本資料は、東海林他（2015）に掲載した参考資料について、一部省略して再掲するものである。)

資料4：「基礎演習B」シラバス

①	「イントロダクション：授業の説明」 「マインドセット」（参加する心構え、課題解決に必要な力とは） 「課題提示」
②	GW：①「國學院大学の魅力とは？」 「アイデア創出方法を学ぼう」（KJ法など） 「分析フレームを学ぼう」（SWOT分析、3C分析など）
③	GW：②「國學院大学の魅力とは？」 「論理的にまとめよう」（ロジックツリーなど）
④	GW：①「未来（10年後）のコンビニ」について 「ミッションの決定、グループ決め、スケジュール」
⑤	GW：②「未来（10年後）のコンビニ」について 「意見を出し（KJ法）、分析する（SWOT分析など）」
⑥	GW：③「未来（10年後）のコンビニ」について 「意見を集約する（ロジックツリー）&中間発表の準備（プレゼン構成）」
⑦	「プレゼンの設計方法・立ち居振る舞いを学ぶ」 GW：「効果的なプレゼンの仕方？」
⑧	GW：④「未来（10年後）のコンビニ」について 「中間発表」
⑨	GW：⑤「未来（10年後）のコンビニ」について 「最終の準備」
⑩	発表：①「未来（10年後）のコンビニ」について 「クラス発表」
⑪	発表：②「未来（10年後）のコンビニ」について 「クラス発表」
⑫	全体発表：①「未来（10年後）のコンビニ」について 「選抜チームによるプレゼン大会」
⑬	「振り返り：グループワーク」 *レポート提出： 字数1600字
⑭	「振り返り：個人（成果、反省、今後の課題（コース、ゼミ）」
⑮	まとめ

確認事項

1. 授業の内に、各グループに授業で実施したことを報告させる。2分程度。
2. 授業の内に「振り返りシート」（メンバー評価）を記入させ、提出させる。次回の授業で、本人に手渡す。
3. 授業の後で、「振り返りシート」（自己評価）を記入させ、2日以内にK-SMAPYを通して提出させる。その後、数日以内にコメントを付けて、K-SMAPYを通して本人に返却する。

資料5：振り返りシートサンプル
振り返りシート （ 月 日）

氏名⇒ _____（出席番号： _____） _____グループ

1. 今回の自分自身の報告について振り返り、自己評価してください。

（該当するものを残してください）

⇒ 4：できた、3：だいたいできた、2：もう少しやるべきだった、1：もっとやるべきだった）

①レジメがわかりやすくまとめられた	4	3	2	1
②レジメの論点・課題がわかりやすくてできた	4	3	2	1
③グループでの役割・課題をしっかりと果たした	4	3	2	1
④積極的に議論に参加した	4	3	2	1
⑤わかりやすく考えや意見を伝えることができた	4	3	2	1
⑥メンバーの意見を聞くことができた	4	3	2	1

2. あなたのレジメは、グループワークにどのように貢献し（役立ち）ましたか？

・
・
・

3. グループのメンバーからもらったアドバイスやコメントを書いてください。

・
・
・

4. 事前にどのように準備をしましたか？（調べた本や資料を具体的に書いてください）

・
・
・

5. 事前に調べて、どのような事がわかりましたか？（か条書きで具体的に書いてください）

・
・
・

6. 事前の準備（本を読んだり、レジメを作ったり）として、何時間勉強しましたか？

7. 次回の基礎演習でのあなたの役割・課題は何ですか？

8. 次回までに、どのような改善や工夫をしますか？具体的に記入してください。

資料6：相互評価シートサンプル

_____さん報告	年	月	日	記入者				
①レジメがわかりやすくまとまっていた	4	3	2	1				
②レジメの論点・課題がわかりやすかった	4	3	2	1				
③グループでの役割・課題をしっかりと果たした	4	3	2	1				
④積極的に議論に参加した	4	3	2	1				
⑤わかりやすく考えを伝えることができた	4	3	2	1				
⑥メンバーの意見を聞くことができた	4	3	2	1				
・良かった点（								）
・気になった点（								）
・アドバイス（								）